



あけましておめでとうございます  
2022



横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ  
会長 辻 剛 ・ クラブメンバー一同

### 今月の聖句

「気落ちしている者たちを励まさない。弱い者たちを助けなさい。すべての人に対して忍耐強く接なさい。だれも、悪をもって悪に報いることのないように気をつけなさい。」

I テサロニケ5・14-15

### 1月本例会

1月の本例会は、当クラブの2021-22年度第2回総会と石巻広域ワイズメンズクラブ（宮城県）との合同例会を併せ行います。対面並びにZoomによるハイブリッド方式で行う予定ですのでご注意ください。

日時：1月28日(金) 17:00開会

場所：田園都筑教会

司会：今城宏子/受付:坂口直樹

～プログラム概要～

- 第1部 17:00～17:50  
つづきクラブ例会  
2021-22年度第2回総会  
・2022-23年度つづきクラブ役員人事について  
・つづきクラブ定款改定について  
・他
- 第2部 18:00～19:40  
つづきクラブ/石巻広域クラブ合同例会 (Zoom)  
卓話：①清水弘一ワイズ  
②川上直哉牧師

### 《巻頭メッセージ》

今城 宏子

あ

けましておめでとうございます！

皆様にとって新しい年が希望の年となりますよう、お祈りいたします。しかしながら、コロナ禍の状況は一旦は好転したかのように見えたものの、オミクロン株の出現によって又もや混沌に向かいつつあります。私たちはこれからの日々をどのように歩んでいけば良いのでしょうか。どこに希望を求めていくのでしょうか。そんな時に新年礼拝で心励まされる讃美歌を賛美しました。



讃美歌21の368番「新しい年を迎えて」日本人による創作讃美歌です。川端純四郎著の「さんびかものがたりIV」（日本キリスト教団出版局）によると歌詞の作者はルーテル教会牧師の江口武憲さん、作曲はルーテル教会信徒で個人的な交友関係にあった声楽家、宗教音楽修士でもある山田実さんと記されています。優しい旋律に乗って、歌詞がストーンと心に落ちてきます。

- 1節：新しい年を迎えて新しい歌を歌おう。なきものをあるがごとくに呼びたもう神をたたえて新しい歌を歌おう。
- 2節：過ぎ去った日々の悲しみ、さまざまうれいはすべてキリストのみ手にゆだねて、み恵みがあふれるような生き方を今年はしよう。
- 3節：みことばにはげまされつつ、欠け多き土の器を主の前にすべて捧げて、み恵みがあふれるような生き方を今年はしよう。
- 4節：自分だけ生きるのではなく、みな共に手をたずさえて、み恵みがあふれる国を地の上に来たらすような生き方を今年はしよう。

私の場合、「今年はしよう」ではなく「今年はできれば良いな！」ですが。

4節にはYMCA、そしてY'Sメンズクラブの大切にしていることが歌われていると思い、これからの歩みへの励ましと受け取りました。

メンバーの多くが病や年齢による痛みの中にありますが、これからも手を携えて、助け合って活動していくことができますよう祈っています。

追記：昨年の11月頃、マンションの同じエントランスにお住まいの方から猫ちゃんのお預かりを提案されました。キョトンとした顔がフクロウに似ていることから「フク」と名付けられた、まもなく2歳になる男の子です。最初は週末ごとに実家(?)に帰っていましたが、すっかり慣れて長期ホームステイとなりました。元気に飛び回る姿に目が回る時もありますが、おかげで夫婦の会話も増え、認知症予防にもなりそうです！「フク」ちゃんは幸福の「福」かもね！ (完)

《例会報告》

2021年12月事務例会

辻 剛 記

日時・場所：12月14日（火）17:00～

@田園都筑教会

出席者：今城H,岡田、鈴木K,鴨下、胡麻尻、

辻Ts・Ta,林、福島、横田（10名）

～概要～

1. 開会点鐘・会長挨拶 辻 剛会長  
今年最後の事務例会は全員がZOOM出席を希望したため100%ZOOM形式にしました。一年間ご協力ありがとうございました。

2. 協議事項

(1) 石巻広域クラブとの合同例会の件（1/28、田園都筑教会）：会長提案のとおり合同例会とし、前半は卓話、後半は各クラブの例会とする。今回の卓話者は石巻Cが担当。開始は18:00とし、石巻C手配によるZOOM方式で進める。（後に、17:00開会としてクラブ例会を先に行うことに変更）

(2) 2022—2023年度 クラブ役員 の件：林次期会長提案以下；会長・林S,直前会長・辻Ts,次期会長・今城T,書記・岡田、会計・横田。最終的には1月の総会にて決定する。

(3) 2022—2023年度1月総会でクラブ会則の見直しを行うとの提案が林副会長よりあり、辻会長が見直し案を作成して1月総会に諮ることとした。

(4) 東日本区から2022-23年度次々期理事および財政監事候補者推薦依頼があったが候補者なしとして返答した。

(5) 2022年2月25日の3者（北Y・つるみ・つづきクラブ）交流会につき、鴨下さんが会場候補の「敦煌」と折衝。北Yスタッフは19:15頃から参加可能。卓話者の森山氏は最初から参加する予定。

3. 報告事項・アピール等

(1) クラブ関連

①報告

アーモンドのチラシ配布の件／「傾聴の広場」、「傾聴MY CAFÉ」、「親の集い・傾聴の勉強会」等のチラシを紹介し、興味のある方の参加を促した。横田さんは「傾聴の広場」に参加の予定。

②再確認

YOU & I コンサートにつき、都筑区の「後援名義貸与」の承認が下り、会場確保が確定した。更に社協にも後援を依頼する。「横室」出演料の削減見直し意見が出され、フリーディスカッションをした。本件は今後さらにクラブ内で議論を重ねて最終的な結論を得る。

③その他

社協関連で、横田さん「社協よりロッカーの継続使用についての問い合わせがあったので、継続更新を申し込んだとの報告。1/19の説明会には横田さんが出席予定。福島さんからも同様の報告あり。交流会には福島さんが出席予定。

(2) 湘南・沖縄部関連

報評議会の件／鈴木S,今城Tが出席。クラブ活動報告は辻Tsが提出。エクステンション委員会提出の議案は承認された。（12月号の鈴木さんの報告参照。）

(3) 東日本区関連

第3回ワイズ・ナイトフォーラムの件で辻会長より、3回のフォーラムは予定通り無事終了し、今後は2ヵ月毎程度の開催を推進委員会が中心になって検討していくことになったと報告。

(4) YMCA関連

鴨下さんより横浜YMCAクリスマス礼拝のURLをメールするのでそれをクリックして参加して欲しいとのコメントがあった。

4. 今後の行事予定

- ・12/14（火）：事務例会
- ・12/18（土）：横浜YMCAのクリスマス祝会／15時～16時／紅葉坂教会／ハイブリッド
- ・12/19（日）：エクステンション委員会／18:00／ZOOM形式のみ
- ・2022/1/11（火）：事務例会
- ・2022/1/28（金）：本例会／総会／合同例会

5. 閉会点鐘 辻 剛会長 (了)

(2021年12月のデータ)

例会出席	10名	在籍会員数	16名	各種記録	11月実績	年度累計
メンバー	10名	月間出席者数	10名	スマイル	0	13,000円
ビジター	0名	メ・キャップ	2名	—	—	—
ゲスト	0名	月間出席率	75%	—	—	—



トサイトーザイ! さてこれより、  
横浜つづきワイズメン&ウィメンズクラブ会員一同より新年を迎えての所感を述べま〜す!

**胡麻尻真佐** (1/10) 昨年来のコロナ禍に怯える日々ですが、私にとっては嬉しいこともありました。日頃お世話になっている先生さし上げた絵を思いもかけず待合室に飾って下さり、行くたびに自分の絵に会えることです。10年ほど前、南仏にスケッチ旅行に行つて描いたものです。(題名:サンポールドヴァンス)

**鴨下純久** (1/16) 今年もどうぞよろしくお祈りします。コロナ禍も間もなく2年。今年は旅行へ行きたい、のんびり温泉へ行きたい、釣りに行きたい、ゴルフへ行きたい、、、と思っていますが、少し欲張りですね。やっぱり家族と楽しく過ごしたい。これが1番です。今年が楽しい1年になりますように!

**山添 訓** (2/17) みなさん、あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りいたします。今年、運動不足解消のため、ウォーキングプラスワンで、ウォーキング以外に何か運動をするようにしたいと思います。あとは、日々、神様の言葉や言葉を聞き、平和の社会がくるように働き続けたいと思います。

**相賀 昇** (3/22) 今年はマルティン・ルターによる『ドイツ語新約聖書』が出版(1522年9月21日)されてちょうど500年になります。ルターはこの新たな挑戦を破門という危機と試練の只中において開始しました。パンデミックや気候変動など厳しい状況が続きますが、私たちが希望と目標を見失うことなく前進したいと思いません。

**辻 孝子** (3/31) この年になると次のお正月は家族4人で迎えられるかしらと思いつつお正月の用意をします。2022年は、なんとかコロナが収まって明るい一年になりますように祈ります。

**鈴木恭子** (4/9) 今年の目標~毎年1年間の目標を決めますが、今年は「読書」と言う楽しい目標にしました。私は昨年末に白内障の手術をしました。すると念願の文庫本が裸眼で読めます。大変嬉しいことです。でも最近の作家の本の選び方もわかりません。今は読書好きな友人が推薦する本を借りて読んでいます。

**福島佐世子** (4/17) 長男を訪ねて上京してきた妹夫婦が帰路我が家に立ち寄りました。「いじめた、いじめられた」で母に告げ口をしていたあの頃が一番幸せだったねと昔話に花が咲き、拳句は、足が痛い、心臓が苦しいといった話になり、最後は「死ぬのは一番も最後も嫌だね」に落ち着いた、姉妹の不思議な三が日でした。

**鈴木 茂** (5/21) 私は以前、まだ現役として勤めていた時代に職場の尊敬する先輩から、「人間は何歳になっても、その歳の人生は始めて経験するのであるから、毎年新たな思いをもって誠実に、謙虚に生きて行きたい」と書かれた年賀状を受け取ったことがあります。私はこの5月に85歳を迎えますが、今年もこの思いをもって日々を過ごしたいと願っています。

**横田孝久** (6/10) うんざりの3年目に入りました。挨拶も皆さん同じ文言です。老化現象に老人の我が儘がありますが、今年には特に謙虚を心がけて過ごしたいと思っています。それと神様から与えられた命を残りの人生に役に立つように使って生きて、まさに使命と心得ます。

**岡田美和** (7/11) 晴れた雪解けの土手をウォーキング。草々が輝きしっとり潤いの地面、川には鴨が群れ鳥も飛ぶ。なのに世の中はオミクロン株で大変です。年賀状では今まで交わってきた暖かい思いになります。喜寿の私は今年もいろいろなことを感じ、交わりながら元気に丁寧に自分のベストで生きていきたいです。

**杉本千津子** (7/12) 子どもの頃から数えると、広東、上海、ニューヨーク、シンガポールなどの各地で十数回のお正月を過ごしましたが、着物姿の写真は、80年程前、4・5才の頃に広東で撮った振袖を着て、大きなリボンをつけて羽子板を持ったもの、これが生涯唯一のお正月の晴れ姿でそれ以後は記憶にありません。

**坂口直樹** (7/17) あけましておめでとうございます。昨年1月にワイズに入会させていただきコロナに翻弄された1年が経過しました。今年、私は古希だそうで何のことやら。ジョギングすると膝がコキコキ状態なのでそんなところかなと。今年の目標をきちんと見つけ、みなさんと懇親しながら過ごしたいと思います。

**今城高之** (7/31) 今年の半ばにはよいよ80歳を迎えます。新年の抱負と言っても、何か新しいことを始めるのではなく、これまで行ってきたことの質を若干でも高めながら一方では手仕舞いの仕方を考えるのかなあ、と思っています。

**林 茂博** (8/13) 生まれて初めて片腕不自由な新年を迎えました。12月3日に転倒し、左手首橈骨骨折との診断、早速ギブスをはめられたのですが、半分だけのギブスで毎日外すことができます。それでも腕が太くなりジャケットやジャンパーは、袖を通すことができず、着(気)苦勞の多い年越でした。

**辻 剛** (8/30) 今年は寅年、我が人生で7回目の年男です。干支でいうと「壬寅」(みずのえ・とら)。厳しい冬を乗り越え、草木が芽吹き始め、新しい成長となる年とのこと。私が生まれた1938年は「戊寅」(つちのえ・とら) といって決断と才智が象徴。コロナやオミクロンに負けず、少しでも成長したいと思う。

**今城宏子** (10/3) 今年、私は55年前に取得した運転免許証を返納することにしました。視力、体力、そして「脳」の能力が大きく低下している実感があるためです。車を使えない不自由さは大きいですが、思い切ることにしたのです。これからは今までの運動不足を反省しつつしっかり歩いて健康保持を心掛けていきます。

( ) 内は誕生日

《調理ボラクリスマス会報告》

コロナ禍のため途絶えていたグループホーム“すぷーん”での調理ボラが再開されたことは前号で報告しましたが、去る12月20日には、昨年実施できなかったクリスマス食事を再開することが出来ました。

今回のシェフ連は、辻さん夫妻、鈴木さん夫妻、今城Tの5名で、病て闘病中の辻孝子ワズが小康を得て参加できたことは何よりのクリスマスの恵みでした。さて、今回準備したものは、ローストチキン、シーフードパエリア、ポテトサラダにデザートのパバロアでした。パエリアはクラブがグループに寄贈したホットプレートで作る画期的な試み（実は、NHKあさイチで紹介されたレシピ）です。

これまでのクリスマス食事会では調理する我々も参加して、入居者、介護者共々一つのテーブルで楽しく頂きましたが、今回は残念ながらコロナ対策で入居者はそれぞれ自室で食事することになっているため、みんなでの食事会は来年までお預けとなりました。

従って、今回の出来栄については我々知る由もないのですが、後日介護の方から、「お代わり連発！」との話をお聞きし、お世辞であつてもうれしい思いを致しました。

新たにコロナ新株感染拡大の兆しがある中、今年の調理ボラがどうなるか模索の途中ですが、入居者の皆さんの喜ぶ顔を見ることが出来ることを調理ボラメンバー一同心より祈っています。



会長の本棚より 辻 剛

「身体の自由を失い、押さえがたい全身痙攣のためベッドから転がり落ち、発語不能となり、咽喉を絞り唇を動かしても、末期に至るまでついに、人語を以ってその胸中を洩らすことかなわなかった人びと…（中略）」

「神さんも当てにならんばい。この世は神さんの創ってくれた世の中ちゅうが、人間は神さんの創りものちゅうが、会社やユーキスイギンちゅうもんは、神さんの創りもんじゃあるめ。まさか神さんの心で創らしたものであるめ。」  
（「苦海浄土」石牟礼道子）

この本は「世界にも類例のなしという前代未聞の有機水銀大量中毒事件」である「水俣病」を告発しているだけでなく、極限状況にあつても輝きを失わない人間の尊厳のようなものを浮かび上がらせている。

水俣病“MINAMATA”という映画が年初に、最近では「水俣曼荼羅」という長編映画が公開されるなど、「苦海浄土」は終わっていない。

私は「水俣病」については何も知らなかった。

以前からいぢどは読んでみたいと思っていた本だが何か重たそうでなかなか手がのびなかった。

今回やっと手にとったのはコロナも影響していたのだろうか…。

コロナとは異なりこれは人間が人間に加えた汚辱の物語ではあるが…。

「生きがいについて」、「夜と霧」、「苦海浄土」、やや暗く重た目の本が続いたが、次回は？（了）

《去年の今頃》～編集アルバムより～

1月の本例会で坂口直樹さんの入会式を行いました。クラブにとっては、久方ぶりの新入会者、かつ、若手とあって大いに喜び合いました。盛大にお祝いすべきところ、コロナ禍のせいでいまだ実現していません。その日が一日も早く訪れますよう！

2021年  
1月22日



ウエーバーは、以上のようなプロテスタンティズムの禁欲的倫理が資本主義の精神を生み出し、資本主義経済を発展させたと指摘しました。一方、渋沢は前記の通り、道徳や信用を基盤とすれば資本主義経済は持続的に発展することを確信していました。兩人とも、人びとの倫理や道徳と言った基本的な規範・意識が経済体制を大きく動かしたり、方向転換させる可能性があることを認めていたように思われます。

これに対してマルクスは、資本家をただひたすら利潤追求に邁進する存在として規定し、資本主義の発展が労働力の搾取に伴う労働者階層の貧困化を招くとともに、資本の蓄積・集中が剰余金を不断に増大させることの結果として、需要と供給のアンバランスを激化させ、ついには資本主義体制そのものが崩壊すると予言しました。現実の経済・社会は、財政政策の出勤、貧困者救済立法、独占禁止法の制定等、需要と供給を多少ともバランスさせる様々な施策、法制度等の導入によって、様々な変質を経ながらも多くの国々で、何とか資本主義体制を保っています。しかし、いかに法制度を整備しても、「法さえ守れば何をやっても構わない」といった利潤追求優先意識は変わらないとして、資本主義体制の崩壊危険は常に潜んでいる、と言うのがマルクスの主張のように思われます。

現に私たちは、核戦争の勃発、貧困層の拡大、生態系

の破壊といった現代資本主義社会の崩壊を懸念させるような深刻な危機に直面しています。元来、人間が作りだした制度やシステムは全て有限であり、無限に続くと考えるのは錯覚に過ぎません。資本主義体制も人間が作りだした偶像に過ぎず、何れの日にか終焉の時を迎えると思います。少なくとも、現在の資本主義体制からは想像できないような変容を遂げるに違いありません。しかし、資本主義体制がどのような変容を遂げるとしても、渋沢やウエーバーが描いた道徳や倫理は、人間が協同生活を行なう上で守るべき本質的な規範であります。このように考えますと、将来資本主義体制を大きく方向転換させたり、変容させたりする要素は、資本主義経済自体の仕組みの中にあるのではなく、人間が共存する上で遵守すべき基本的な倫理意識や使命感と言った全く異なる次元にあると思われる。

現代社会を変革し、方向転換させる真の力は、資本主義経済がもたらした人類の三大危機・破局と想定される前記の「核戦争、貧困、環境破壊」の根源を解明し、その対処・回避・解決に向けた新しい倫理意識や使命感でなければならぬと考えます。 (完)

※本稿は、当クラブ鈴木茂ワイズが所属する田園都筑教会の会報「つづきのいのち」2021年10月1日号に投稿されたもので、鈴木ワイズならびに会報発行人のご了承を得て本誌に3回にわたって転載するものです。

## 北Y便利

横浜北YMCA 館長 鴨下 純久



文部科学省の調査により、自然の中での体験が子どもたちの成長に良い影響を与えると確証されているのですが、2020年2月より感染症が広がる中で様々な制限が掛かり、キャンプが実施できない期間が続いていました。この冬休みに横浜YMCAにとりましては1年ぶりのキャンプを実施しました。スキーキャンプについては、実に2年ぶりの実施となりました。クリスマス前後から寒波が押し寄せたこともあり、新雪のゲレンデでスキーを楽しむことができました。キャンプ期間中、手洗いやうがいをはじめ、感染症予防対策を万全に行いました。参加したメンバーが日常的に予防を徹底していることもあり、期間中に大きく体調を崩す者も発熱者もなく、無事にキャンプを終えることができました。これからもキャンプが安全に実施できるように、一日も早く感染症が収束することを願っています。

さて、11月3日に開催する恒例の「北Yまつり」は、コロナ禍の影響により中止としましたが、今年も横浜北YMCAでは、様々な地域や国で困難な状況にある方々を支援するための「国際地域協力募金」へ取り組んでいます。その一つが、8月より毎月実施している街頭募金です。この該当募

金は、水泳や体操、サッカークラス等に参加しているメンバーが中心となって取り組んでいます。また、12月下旬より1月末まで「チャイハネ」さまからご提供いただいた物品（帽子やストールやアクセサリー等）を館1階受付前で販売しています。2月には募金月間として、参加メンバーや保護者の皆さまへ募金のご協力をお願いさせていただくと同時に期間中に、サイレントオークション（入札形式のオークション）を実施する予定です。今年度の目標額である50万円の達成に向けてご協力をお願いします。

2022年が皆さまにとって、素晴らしい年となることをお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお祈りいたします。



ミニバザーの様子

《連載寄稿》「恥ずかしのワイン蘊蓄」～5～

横田 孝久

2015年10月に横浜つづきY'sの恒例移動例会があり、山梨は勝沼方面で山梨県立美術館でミレーの「種をまく人」「落穂拾い」を鑑賞しながらワインの里巡りが行われました。

昔は多くの長いトンネルを蒸気機関車で真っ黒になりながらの中央線の旅だったようですが、近年は電車に乗れば、新宿から1時間半ほどで笹子の長いトンネルを抜けると、甲府盆地に入ります。ここでは南アルプスの遠景と盆地の素晴らしい眺めが車窓に広がります。このあたり一帯は右も左もぶどう畑。特に夏から秋には棚にぶら下がっているぶどうの房が手に取るように見えます。

11月号では日本ワインの歴史を少しだけ披露させていただきましたのでここでは省きますが、日本では10年前あたりで約30万トンのブドウが生産されており、その多くは生食用でワイン用はやっと10%を超えるようになっているのが実情です。その中でも山梨は日本一の生産量です。ぶどうはアメリカ系ぶどうと甲州種やマスカット・ベリーが主でしたが、本格的にワイン生産が試みられるにしたがって、ヨーロッパ系のブドウも栽培研究され、前号で書きましたように日本の気候条件ではなかなか難しい事ではありましたが徐々に適合されつつあります。最近では品種改良も進んで、ワインによってはヨーロッパやアメリカなどの品評会で優秀な成績

を収められるようになってきました。在来種の甲州種と他品種を交雑させて独特なすばらしいものが醸造生産されていたり、他国から原酒をバルク輸入して、ブレンドして良いワインを造っています。

山梨県内では約80社位のワイナリーがあるそうで、観光的にはワイナリー巡りの企画がいくつもあります。我々は甲府クラブの仙洞田さんの紹介と案内で「若尾果樹園」を訪問しました。仙洞田さんは醸造所の設計などもされている方です。他にサントリー経営の「登美の丘ワイナリー」と「ぶどうの丘ワイナリー」を訪問しました。それぞれの畑では土の改良などに努力をされて、良い環境（テロワール）を保っていました。

日本固有のぶどう品種「甲州種」は穏やかに立つ柑橘系の香り、アルコール感の軽さ、シャープな酸味が特徴です。その一つは世界が知っているグレイスワインの白ですが、これは美味しいです、意外とさっぱりした辛口です。また、有名な一升瓶ワイン（原茂園）も甲州種の白ワインを大勢でわいわいと楽しむのに最高です。辛口の赤ワインはマスカットベリー種で特にお肉料理には良いです。

名前は確かワイン「蔵」と記憶してます。珍しいのは伊勢志摩サミットで披露された甲州種のドライワイン（シャトー酒折）なども一度テストングで飲みましたが、小生は味は忘れられました。あとはサントリーの登美の丘のメルロー種の赤ワインもお勧めです。字数の関係で今回はここまで。（了）

2021年

横浜YMCAクリスマス礼拝

昨年12月18日(土)、横浜YMCAのクリスマス礼拝が横浜市西区の日本キリスト教団紅葉坂教会において、同教会荒井仁牧師（横浜YMCA常議員）により執り行われました。通常であれば礼拝終了後、次年度YMCA入職予定の若者達を交えて、軽食を頂きながらの懇親会も持たれるのですが、今年はコロナ禍ということで礼拝のみの静かなクリスマスとなりました。当クラブは、毎年、12月の例会に替えてこのクリスマス祝会への参加を恒例としてきましたが、今年は鈴木S、横田、今城T各ワイズのみの参加と寂しいクリスマスとなりました。今年こそは全員で参加したいものです。



《お目を拝借》 高齢者川柳“第4弾”

まだ生きる つもりで並ぶ 宝くじ  
目覚ましの ベルはまだかと 起きて待つ  
脳のシワ 顔に出ると 孫が云う  
大事なら しまふな二度と 出てこない  
昔「酒」今は病院 ハシゴする

▽コロナに明けコロナに暮れた2021年でしたが、皆様はどんな新年を迎えたいと言われたか。感染も強いと、今年も、当分はコロナとの共生を探る日々が続くようです。鈴木茂ワイズによる「渋沢栄一とマックス・ウェーバー」が完了しました。時宜にかなう読み応えのある投稿に感謝です。また、今回で5回目となるワインに関する「蘊蓄」を披露してくれました。横田ワイズにも感謝です。兄のワインに対する関心も、熱意が感じられるので、引き続きお楽しみに。また、皆様のご協力、ご支援ありがとうございます。（編集子）

(編集後記)